

令和5年度

「県・市町村青少年
相談担当者・東毛地区研修会」

アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

令和5年度 県・市町村青少年相談担当職員東毛地区研修会 アンケート結果

日時 令和5年7月27日(木)

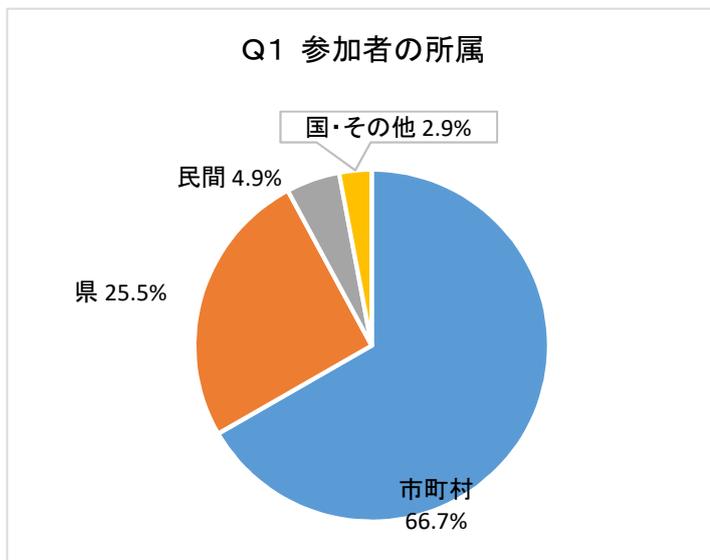
13:00~15:00

会場 太田市宝泉行政センター

- 研修参加者 120 人
- 回答者 102 人
- 回答率 85.0 %

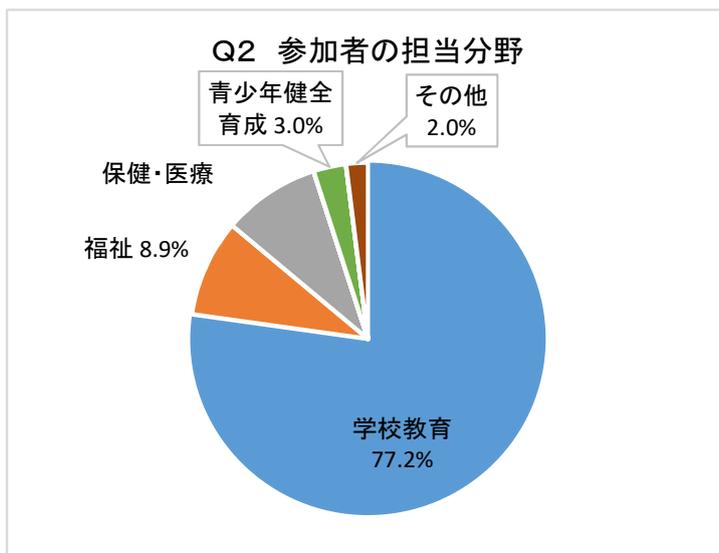
Q1 回答者の所属

	人数	割合
市町村	68	66.7%
県	26	25.5%
民間	5	4.9%
国・その他	3	2.9%
合計	102	



Q2 回答者の担当分野

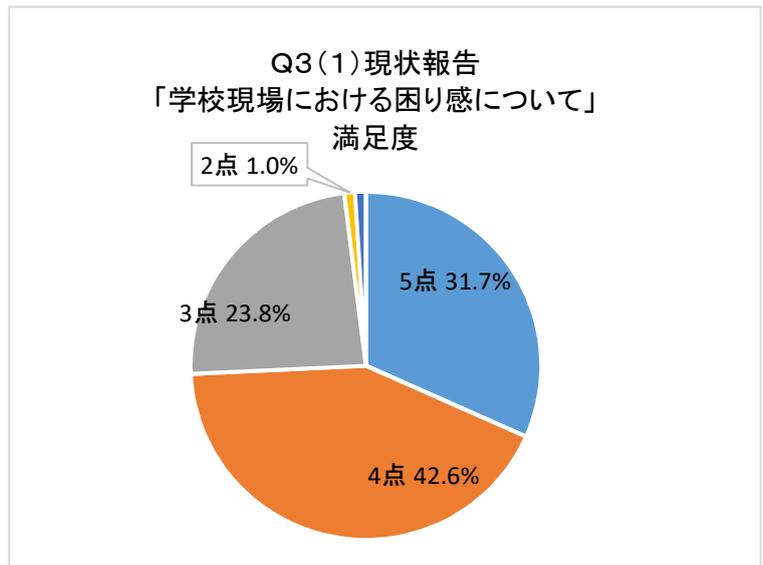
	人数	割合
学校教育	78	77.2%
福祉	9	8.9%
保健・医療	9	8.9%
雇用	0	0.0%
矯正・更生保護	0	0.0%
青少年健全育成	3	3.0%
当事者	0	0.0%
その他	2	2.0%
合計	101	



Q3(1) 現状報告「学校現場における困り感について」

太田市教育委員会 学校教育課指導主事 岡田 毅氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	32	31.7%
	4点	43	42.6%
	3点	24	23.8%
	2点	1	1.0%
	1点	1	1.0%
合計		101	



○意見・感想等

1	<p>・相談機関の一覧を学校でいただくことはありますが、具体的にどこの機関がどのような支援をしてくれるのか分からなかったため、今回参加された方々の所属場所の支援内容を知れたことは良かったです。</p> <p>・ただ、岡田さんが質問してくれたことが現在の困り感としては当てはまることだったので、もう少し具体的な答えが聞きたかったです。</p> <p>・グレーゾーンにいる子どもたちが高校を卒業できなかった場合、大きな心の傷になりますが、特支は知的であることが条件なので、知的に低い子でない限り手帳があっても特支に行けず、他の学校にも行けず、通信になることが多くなります。通信に行っても就職や進学で支援してもらえる体制が整っていると安心して保護者も子どもの進路を変更(転退学)を子どもに合わせて考えることができると思うので、そのような支援体制を教えて欲しいと思いました。</p>
2	鈴木先生がおっしゃっていた真ん中にしている児童への対応が難しいと私自身も悩んでいたため話を聞いて良かったです。
3	近況の報告で現実問題として捉えることができた。
4	日頃、学校現場にいるので同じようなケースがたくさん頭に浮かび、それを思い出しながら自分のこととして聞かせていただきました。
5	特別支援に関する情報がいろいろと言われているが、現場での認識や対応が伴っていないように感じている。今日の話で参考にできることは持ち帰って情報共有したい。
6	発達特性について医学的な見地から、もっと鈴木Drの話を聞きたかったです。
7	高等特別支援学校のアドバイザーとして高校へ訪問支援に行っています。事例を聞きながら、この生徒さんたちが普通高校に入学してくるのだろうなと思っておりました。日頃感じているのですが、幼保⇒小⇒中⇒高と支援が切れ目なく続くことを願っています。
8	様々な機関(普段はお話が聞けない)とケース紹介やアドバイスが聞けて、また医療的な話も聞けて大変勉強になりました。
9	早い時期からその子の特性に気づき、支援を引き継ぐという内容がとても印象的でした。私たちの所属は私立なので、私立学校の相談機関などについて教えていただきたいと感じました。
10	とても分かり易く多くのことを考えさせられました。学校から離れるとどうなる?ゴールはどこ?など、これからも考えなければなと思うところもありました。一つとして自分を出していけるようにするというのがあり、とても良かったです。

11	どの事例もよくあることで本当にこのようなケースが至るところで増えているのだと痛感しました。岡田先生、後半の質問の場面でもいろいろなことを考え、配慮されながら質問されていて感心しました。このような現場や子どもの大変さ、困り感を的確に理解してくださる指導主事の先生がいらっしゃるのは心強いと思います(私は他郡市の人間ですが)
12	多くのケースが聞けてよかった。小中学校の現場の大変さが伝わった。小学校のケースは支援学級なのか、普通学級なのかが分からなかったが、きっと通常学級だと思って聞いていました。
13	普段、小・中学校と関わる機会が少ないため事例を通して、小・中学校が抱えている困り感を知ることができ、高校への引き継ぎの大切さを改めて考えさせられました。
14	「チーム学校」「同じ土俵」頭の中だけで空回りしていて苦しい時期がありました。少しでも意見を違えることができれば、そして、そのためには知識が必要ですが。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の困り感を抱えた児童生徒の正しい理解に課題を感じています。 ・「問題のある子ども」⇒すぐ「特別支援学級へつなぐ」というルートができてしまう。 ・対応、関わり方で通常級でもやっていける子どもは多い。 ・正しい理解、支援のあり方を全ての教員が持てるようにしたい⇒研修は必要。 ・様々な視点で子どもを見ることの大切さを改めて感じました。
16	学校での教員勤務の経験があり、現場での大変さ、現在の相談業務の中での学校との連携の難しさを日々感じてます。同じ困り感を皆さんが感じられることを心強く、私も工夫しながら上手に連携していきたいと思います。
17	学校だけではどうにもならないトラブルにSSWなどもっと上手く外部の方に支援に入ってもらう方法が身近になるといいなと思いました。
18	限られた時間でしたが、子どもたちの困り感を理解するために、またよりよい支援をしていくためのお話を聞き、自分自身も子どもたちのことを考えながら聞くことができました。
19	それぞれの立場の方の取組や日頃のご苦労、対処方法の工夫などを知ることができ、大変役に立ちました。鈴木先生のお話を伺うのは初めてでしたが、今受け持っているお子さんのケースにピタッと当てはまるお話でとても勇気がわいてきました。貴重なお話ありがとうございました。石川先生からのお話ももっと伺いたかったです。
20	事例を出しての分かりやすい内容で大変勉強になりました。引き継ぎ、連携をキーワードに大切にしていきたいです。
21	様々の分野の専門家が、学校とどう関わっているのか分かり相談しやすくなったと思う。
22	様々な事例を挙げていただきありがとうございました。
23	心の相談員という立場で参加しました。チームの一員として何か関われるきっかけがあるように感じましたが、どうしたら良いのかわかりません。支援機関との連携について具体的に考える貴重な機会でした。
24	学校が抱える困り感がわかりました。
25	問題提起とのことであったが、何が問題なのか不明でした。焦点化していただき良かったです。二次的の一次は？二次は？よくわかりませんでした。三次があるのでしょうか。児童の見立てに対する対応が苦手な人が多いです。困り感とはどのように規定していますか？言葉を創って本質を見ていないのでは？行政が焦点化できないと誰も何も子どものために動けません。そもそもケースは個々に違うもの、複数扱っては見通しが立たない。
26	幼児教室を受けてくれる場がなく、年中以下は断られています。相談のみでその後の支援につながりにくい。幼児相談、教室を充実させて欲しい。
27	具体的なケースを聞くことでイメージできました。本人の困り感がどこにあるのか、行動ではなく不安を言葉で伝えられるようになる支援が大事だと分かりました。
28	幼児期からの介入の必要性、重要性を学ぶことができました。また、ただ連携するのではなく、役割を意識することの大切さについても学ぶことができました。
29	不登校生徒の増加とその対応
30	現在関わっている相談事例(ケース)と似ている内容であったため参考になりました。
31	貴重なお話ありがとうございました。

32	本人の特性をつかむまで時間がかかる。特性がわかっても個々の支援をどのようにしていくのか難しいところがある。
33	石川先生ご自身のご提案も聞けると良かった。いろいろ今日お聞きしたことに沿って、明日から新たな視点で子どもを見たい(考えて備えたい)と思う。
34	問題発覚後の機動性、早期対応
35	学校大変だなという感想です。
36	本当は伝えきれないくらい困り感があるのが事実だと思うので、例はほんの一部しか過ぎないが、このようなことを伝える共有する場があったことは良かった。
37	学校現場では常に人が足りない。教員以外の支援員、SC、SSWの勤務時間が足りない。教員だけで対応するのは難しい。いろいろな考え方、経験をもった人材がもっと学校現場では必要。児童生徒、保護者支援が必要。本人や保護者の気持ちを受け止める役割の人材が必要で、関係機関と連携しながら支援していく。学校も上手に教員以外の人とつながっていくことが大切ではないか。専門機関からのアドバイスが必要。学校で指導ができないとどうしても家に帰ざるおう得なくなる。
38	事例の紹介は参考になったが、ハードなケースを感じなかった。
39	学校との連携の難しさを感じる。
40	それぞれの事例の解決策について、専門家のご意見を知りたいです。
41	いろいろな事例を知ることができて良かった。
42	ケース事例発表をもう少し短くして、後半のディスカッションの充実を図られると良いと感じた。鈴木先生のまとめももう少し聞きたいと感じた。
43	様々な事例について、学校、家庭、地域、外部機関との連携を深め、多方面からのアプローチの仕分けを学ぶことが出来た。今回のパネリストの方々も行政、専門相談員、児相の見立て、対応例だったので、立場によって見解が分かれる部分も面白いと感じた。ただ、どのパネリストも子どもファーストで、いかに寄り添った指導が鍵であることを実感した。 学校現場の先生方も特性のある子たちの対応に苦慮しており、正直八方塞がりになって困っていると感じる。そこを様々な関係者が切れ目なく、支援していくことが学校の負担軽減につながるとともに、子ども自身の有益な自立支援になることは先生方にとっても、子どもたちにとっても必要なことだと感じている。よくチーム学校と言われるが、家庭や地域の教育力が落ちている今だからこそ、改めて、地域の資源を活用して、子どもたちを育てていく姿勢が求められると勉強になった。
44	事例一つ一つ、想像するだけで胃がキューツとなり胸がドキドキしました。このような事態に直面している方々が救われるように願っています。つい、学校側、教員側のしんどさに気持ちが向く自分がいます。まだ、子どもに寄り添う姿勢が自分には足りないのだと思います。
45	見立ての難しさ、支援策の検討に苦慮。この部分がよく分かりました。
46	共通する困り感があり共感できた。
47	登壇者の方の事例発表がとても長く、助言者の方のお話の時間がほとんどなく残念だった。パネルディスカッションの内容もあまり深まりがなく残念でした。鈴木先生のお話で一時間位とっていただきたいかったです。
48	「気になるけど、そこまでではない。」というグレーゾーンの子が多く、対応に困っています。
49	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場にたまにしか来ない方がアドバイスされても現場の先生には伝わりにくい。せめて月1回来てもらいたい。 ・地域によっては相談員、SCがなかなか来ない地域もある。 ・教育委員会担当の方は特別支援について理解不足の方がまだ多い。 ・管理職の校長、教頭は特支を理解されていない方も多い。 ・町、村の方に「幼・小・中連携」とあるが、情報の共有はできているが、担当の方が変わってしまうと、つながらないことがある。 ・鈴木先生の話がありがたいです。
50	関係機関の役割が分かった。学校と関係機関との連携についてももう少しわしく聞きたかった。
51	不登校が昨年度より3割も増加しているということは学校現場も年々大変になっていて余裕がないと感じています。
52	困り感を抱えた子どもたちの周りで家庭や学校現場でも大変な困り感が起きているが、それぞれの立場の中で一生懸命対応策を考えていることが分かり少し安心しました。
53	グラフや表があり、具体的に分かりやすかった。問題提起もしていただきました。

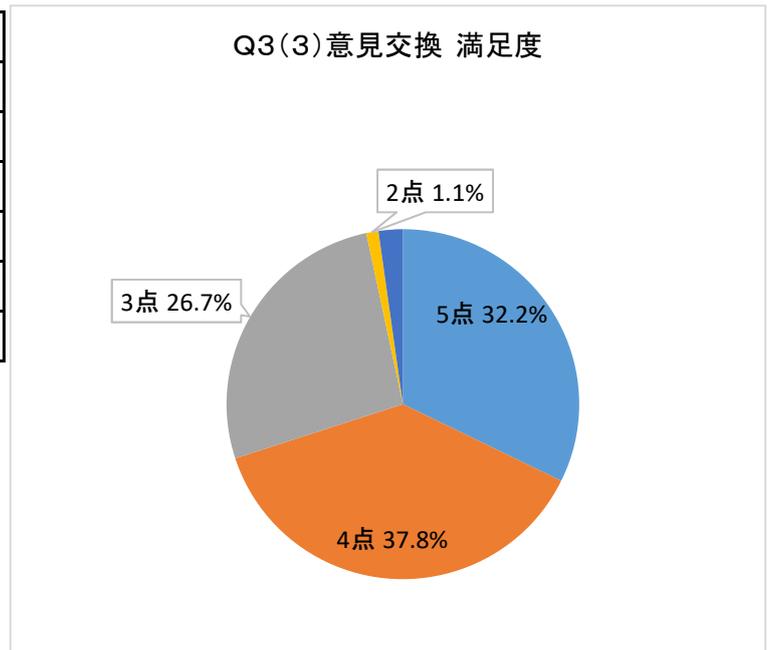
54	<p>専門家の先生によるケーススタディを生で観てみたいと思いました。ケースも一つに絞り、深く掘り下げるようにすれば気付きももっと大きくなると感じました。また、参観者の意見も反映されると良いと思いました。</p>
55	<ul style="list-style-type: none"> ・困り感に対して市としてどんなこと(対応)をしているのか。(例)研修とか、リーフレットの紹介とか、介助員の配置、訪問観察後のケアなどを知りたい。 ・子どもの困り感を解消できたケースを知りたい。(例)手立てや支援者の方針とか。 ・いろいろな学校の様子が知れたのはとても良かったです。情報収集やまとめていただきありがとうございました。 ・特支コーディネーターを機能させるよう市として研修して欲しいです。(希望)
56	<p>児相の方がアセスメントの重要性、そして問題行動が発達障害のみ起因でなく、環境要因なのか、様々な視点は必要ということは日頃の子どもを見ても納得した。「不安を言葉で表現できるように促す」ということを実践していきたいと思う。</p>
57	<p>目の前の子どものために、いろいろと教えようとしたり、学ばせようと一生懸命に取り組んでいても、信頼関係が上手くいっていないと感じました。子どもの受容する能力を超えるような関わり方だったかな？と反省する機会となりました。</p>
58	<p>幼児期の関わりが小・中と成長していく中で大きく響いていくのだと感じました。丁寧に引き継ぎをして有効な手立て、本人の特性理解を深めていかなければなりません。しかし、4月に担任が決まった時点では、担任はとても多忙で学級事務に追われています。なかなか満足に引き継ぎができないまま、子どもとの関わりがスタートしてしまうのは、教員としてとても不安です。また教員の特別支援教育への理解にもバラツキがあり、人によって対応が変わっている現状もあり、どうにかしていきたいと課題に感じております。</p>
59	<p>通常学級で支援が必要な生徒(グレーゾーン)に対して、担任が負担にならない程度でできる支援事例を多くあげてもらえるとありがたいです。</p>
60	<p>「二次的な問題」について、研修テーマとして問題提起されていたが、二次的問題が起こらない対応が本来なら必要なことであると思う。</p>
61	<p>事例や支援機関はあったが具体支援の仕方や上手くいったその後の事例が乏しかった。</p>
62	<p>診断(自閉症ではないが)は受けていないが、日常、急な変化に対応できなく困り感の強い児童(小1)の対応、支援に困っています。とてもナイーブで一度心が折れてしまうと、立ち直るまでに時間がかかってしまう。鈴木先生の医療の立場からのお話、とても感銘を受けました。次の機会もあると勉強になります。</p>
63	<p>学校で本人の理解が乏しいために本人に合わない関わり方をしてしまうことが二次障害につながってしまうのだと思いました。クラスで何十人もの児童生徒を見なければならぬ担任の負担を軽減するためにも、学校内や関係機関との連携が大切だと感じます。</p>
64	<p>仕事柄幼児期からの関わりが多いので、幼児期からの発達の気付き、相談に対するハードルを下げる大切さを感じました。発達課題が学齢期に入ってどんな風に出てくるのか理解を深めることができました。</p>

Q3(2) パネルディスカッション

- コーディネーター NPO法人リンケージ 理事長 石川京子氏
- 助言者 みどりクリニック 院長 鈴木基司氏
- 登壇者

太田市教育委員会 学校教育課指導主事 岡田 毅氏
 太田市子育てそうだん課 こども発達支援センター「にじいろ」 三田 美由紀氏
 群馬県東部教育事務所 特別支援教育専門相談員 山本 泰弘氏
 群馬県東部児童相談所 補佐(発達支援係長) 赤石 美江氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	29	32.2%
	4点	34	37.8%
	3点	24	26.7%
	2点	1	1.1%
	1点	2	2.2%
合計		90	



○意見・感想等

1	いろいろなケースを知ることができたが、そのケースの場合にどんな支援をするといいいのか、もっと詳しく教えてもらえると良かった。
2	いろいろな立場の方のお話が聞けて良かったです。学校だけでなくいろいろな機関と連携することは大切だと感じました。特に児相の方のお話はテーマに沿っていて分かりやすかったです。
3	様々な立場の方からのお話、日頃から自分でも大切にしたいと思っていること(実際にはなかなか十分にできていませんが)だったので、頭の整理になり次に何をすべきかを少し考えられたかなと思います。
4	それぞれの専門機関に関する内容(業務等、どういった人を対象に行っているのかなど)についてよくわかった。連携を図る際の参考になった。
5	大変参考になりました。現場では日々子どもの対応に苦慮し、教師が体も心も疲れ切っています。もっとこのような視点からの研修会や様々な機関からのサポートがあるとありがたいです。鈴木先生のお話も大変納得致しました。
6	通常学級における場合と支援・情緒学級のケースでは問題も変わってくると思うので二次的な問題についての一般化まで話がいかず、個別のケースの説明で終わってしまって残念でした。鈴木先生や石川さんが話す時間がもっとあった方がよかったですと思います。
7	いろいろな角度からの支援についてとても参考になりました。であれば現状報告にももう少し触れて、対応・支援について深めて欲しかったです。鈴木先生の助言が日々の指導の参考になり勉強になりました。
8	特性を持っている児童、保護者との関わりが大変勉強になりました。
9	様々な事例を通し、関係機関が役割分担をし、本人への支援、保護者へのサポートを共通認識をもっていっていくことが重要であると再認識させられました。

10	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例が多く、普段聞くことのない低年齢への対応について勉強になりました。大切なことは資料で欲しかった。全てを書き留められず残念。 ・学校(教諭)の関わり方、適切な方法が知りたい。岡田さんの質問がとても聞きたかったことでした。 ・最近特徴を持つ子が多く、40対1(授業中)では対応できない。本人は困っていない(親も)でも学校では周りを困らせる。こちらの指導が響かず暖簾に腕押し。中学から高校への引き継ぎ、情報少ないです。
11	不登校に関して光が見えたように思えました。
12	とてもたくさんのお話をいただきありがとうございました。日々の相談や学校等の訪問の中での難しさを感じています。皆さんも同じ悩みを持ちつつ取り組んでいることがわかり、とても良かったです。明日からの業務にいかしていきたいと思います。
13	鈴木先生のお話をもう少し長く聞かせていただきたかったです。連携できる機関について改めて確認できて有意義でした。
14	幼児期、児童期など小さい頃からの「支援を引き継ぐ」ことの大切さを改めて感じました。
15	支援においては、関係機関同士の情報の引き継ぎ・共有が大事であり、また、役割分担も大切であることを強く認識した。
16	具体的でそれぞれの立場からの意見、とても良かったです。引き継ぎと連携を大切にやっていきたいです。
17	コーディネーターの進め方のうまみ(巧み)を感じました。
18	それぞれの立場から行っていたらいい支援がよく分かりました。
19	関係機関(児相、東部教育事務所、にじいろ)の日常的な取組がとてもとても伝わってきました。鈴木先生がパネラーになっていただいたらどうかと感じました。医療機関も連携の軸と考えられる？
20	不登校の早期化が課題になっているが、早期からの支援のためには幼保小の連携が大切だと感じた。いろいろな視点で見ていくことで、それぞれの強みをいかした支援ができる。保護者を支援していくことも重要。適応という言葉が出てきましたが、集団適応とは「その子が集団に適応する」のではなく、「集団がその子に適応する」と考えていかないといけないと思います。困り感を誰(本人、周囲の大人+周囲の子ども)が理解することが大切か
21	パネルディスカッションでしたか？「子発」であれば就学時健診での視点、入学前までの学校との連携の仕方などを示して欲しかった。学校は相談の場に保護者を上げなければならないのです。WISKを受けるところまでの道筋も苦しいのです。学校と病院が連携しやすいようにサポートファイル「小さいうちから支援につながって」と言われても、学校で①普通学級で、②普通学級から通級へ、③普通学級から特支級へ 3つのケースでどのように対応すればよいか考えを示したり、ディスカッションがあったりするのだと期待していました。問題提起との関係が不明です。事例は何のためですか、困ったことに対してどのような手順で、誰がどこが繋がると良い等が知りたい。引き継ぎの大切さは分かります。今日はどのように不登校に至らずに支援できるかが、テーマにしたかったのでしょうか？研修会の要項どおりの研修をして欲しい。設定のねらいを読み、申し込みましたがとても残念でした。抽象的な話し合いはほしくないと思います。具体的な手立てを示していただきたい。
22	いろいろな専門家の考えが参考になりました。また、鈴木先生の「困り感」に係る話は、現在関わっている内容に直結していて今後役立つように思えました。
23	鈴木先生のお話がとても分かりやすく勉強になりました。事例も大切ですが、鈴木先生のお話をもう少し聞きたかったと思います。
24	様々な立場の機関の方から関わり方について詳しくお話していただきありがとうございました。連携の大切さについてこれからも参考にさせていただきます。
25	貴重なお話ありがとうございました。自分の関わっているケースと重ねながらお話を聴かせていただきました。
26	テーマからはずれています。
27	保護者も担任の先生も「自分はよくやっている」と思えるように声をかけるようにしています。また本人には「一番にならなくていい」と言うようにしています。「死にたい」「学校に行きたくない」と言っている生徒は”今起きていること”に目が向いているだけ、「将来」「人生」と大きな枠で捉えられていないことが多いので、人生の浮き沈みについて話してあげるようにしています。保護者にも話すとはつとめていることがあるので、私だけは「悩みのスパイラル」に巻き込まれないように気をつけています。
28	それぞれの立場の方からいろいろ聞けたのでよかったです。
29	鈴木先生のお話をもっと聴きたかったです。是非、講演会の開催を企画していただきたいです。
30	具体的な事例にしぼって登壇者の意見交換でのやりとりを期待したい。
31	事例発表について当事者の同意が得られているのか気になりました。

32	全体的に早口で聞き取りづらかった。
33	諸機関との連携の重要性を改めて感じました。学校現場からだどうしても適応を求めてしまいがちなので、不安を言葉にする聞き役になるという役割分担について考えていきたいです。
34	二次障害を未然に防ぐことは難しい。問題が表出した時に対応することが大事。
35	リストカットする子が多い。親が子どもの問題に口を出しすぎ。
36	事例紹介、岡田主導主事からのパネリストへの質問が中心だったので、もう少し、パネリスト同士のざっくばらんな対話が聞けるとより勉強になると感じた。また事例が多岐に亘っていたので、もう少し絞って共通の話題で話をしてもよかった。
37	関係機関、それぞれの実際の具体的な様子を聞くことができ良かったです。岡田さんの質問が、学校としてどうしたら良いかという助言を求めてくれていて、鋭くてとてもありがたいです。
38	事例について、パネルディスカッションで様々な立場からの意見交換を聞きたかった。
39	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例が多く、普段聞くことのない低年齢への対応について勉強になりました。大切なことは資料で欲しかった。全てを書き留められず残念。 ・特徴がある子どもも集団の中で行動する場合がある。こだわりがあったり遅れが出たりした時にどう支援していくのか、次から次へとやるが出ていく中で見守ることの難しさも感じた。 ・保護者自身も育ってきた背景、困り感もある。そこも念頭に入れた対応報告が大切であると感じた。 ・今受け持っている生徒の次年度への引き継ぎ資料をしっかりと作成し、伝達していきたいと感じた。
40	<ul style="list-style-type: none"> ・児相で検査を通してただけのことであり、連携していけるということで安心しました。検査を通して具体的な支援方法がわかれば支援の手立てを考えることができ助かります。 ・幼児期からの引き継ぎが大切なことを実感しました。 ・特性を持っている子に対しても声かけも気をつけていかなければと思いました。
41	にじいろの三田さんの話より、保護者が学校を悪者にするのではなく、その子のためにどうしたら良いかと視点を変えていけるような関わりをされているとのことで、このような関わりで学校との間に入っただくと助かるという場面はあると思います。他機関と連携させていただき、より適切な支援をしていけるようにしたいと思いました。大変勉強になりました。
42	具体的事例の紹介があり、自分の担当している児童とも重なることがあり理解しやすかった。担任としての役割が明確になりました。自分の学校では小1、小2、小3が支援が必要な子どもが多いです。個々に違いがありますが、学校として適切な対応の仕方が必要です。それぞれの組織の代表の方々の話が聞けたことは意義のある内容でした。幼児の頃の対応をしていただいているとのこと。ありがたいです。
43	少し長いので休憩や演習、ペアでの対話、質問などが入ると参加者が一体となって参加できると思います。今日みたいな感じでしたらオンライン視聴だとさらに有意義かと思います。様々な立場の方の取組が聞けてのでも良かったです。石川先生、鈴木先生の話をもっと聞きたいです。もったいないです。楽しみにしていたので。アセスメントが大事、それをどう生かして支援していくのか、PDCAサイクルで取り組むことを再認識できました。
44	立場の違う専門家の方々の意見が聞けて大変ためになりました。
45	課題提起していただいた内容についてのアンサー、考えが聞けるとより良い時間になるなと思いました。いろいろな事例をお聞きする中で学びが多かったです。最後の鈴木先生のお話からの学びも大きかったです。役割分担をして担任が抱え込まないようにしていきたいと感じました。
46	役割を意識した連携の大切さを感じた。
47	いろんな関係機関が知れて良かったです。
48	事例をあげてのパネルディスカッションであるが、まずは本人のつまりきや特性環境を総合的に見ていくことが大切である。連携する支援機関へと目がいきがちだが、そこに所属している子どもや保護者から目を離さずにいきたい。赤石先生が上手くまとめてくださいました。問題提起で事例5つあるのでそれについてディスカッションをした方が深まったのではないかと。鈴木先生の話をもっと少し長く聞けるような時間配分を。
49	各機関の内容を教えてくださいありがとうございました。
50	その後の経過や上手くいった方策が分からなかった。学級では他害行動をしている子どもがいても支援員の要望が通らず困っています。危険を感じています。本人は困っていなくても周りは困っています。管理職も可能な限りサポートに入っていますが、常駐ではないです。
51	幼児期からの引き継ぎの大切さを改めて知りました。またアセスメントをして終わりではなく、本人(理解できる年齢なら)や保護者、学校の先生方などに本人の特性の理解をしてもらい、支援につなげることが必要だと学びました。

Q4 次回研修会への期待

今回は「発達特性のある本人の進学、就労の支援について」(仮題)です。
意見・要望を記入してください

○意見・感想等

1	学校での具体的な支援を教えて欲しい。どう学校生活で学ばせるか。
2	引き継ぎについて、子どもたちの成長をたて軸で見えていくための方法、取組を知りたいです。
3	高校の教員です。義務に関する内容が中心でしたが、普通高校にも特性を持った生徒が入学してきます。現場での教員をはじめ困り感を持つケースが年々増えてきているように感じているが、特に中学からの引き継ぎもなく困っている状況です。
4	非常に興味深いテーマで楽しみにしています。
5	ASD+ADHDのある子ども、起立性調節障害で朝起きられない。勉強は好きなことしかしたくない。家では遊んでしまう。まだ仕事はしたくない。どうすれば良いですか？
6	不登校生徒の進路についての情報、情報提供の仕方、日々、困りや悩みがあります。詳しくお聞きできるとありがたいです。
7	就労支援のポイントを教えて欲しいです。
8	高校の特別支援教室はどうなっているか。
9	ある程度オーダーメイドで進学とともに就労を考えていかないと本人が長く続けていくことが難しいのではないかと。ジョブコーチなどの支援者を付けて就労支援をしていかないと本人を理解する人を周りに配置すべきかなと思います。行政の方向性を知りたい。支援者の育成をどうするかなどを知りたい。
10	具体例、進学と就労の選択について、どちらが適切なのか、特性のある人の就労先での支援の紹介。
11	今回のような具体的な事例を知りたいです。
12	貴重な研修の機会をありがとうございました。大変勉強になりました。石川先生の要所、要所のまとめが素晴らしかったです。また、鈴木先生の指導講評が分かりやすかったです。
13	進学先や就労先の方々からの経験談や送る側が踏まえておくべきことが聞きたい。それを支援に生かしたい。
14	不登校の子の進学等の支援についても話を聞きたいです。
15	鈴木先生のお話をもっと長く聞きたいです。
16	興味、関心のある内容です。
17	太田市内で発達障害や肢体不自由、虚弱体質、知的障害がありながらも生き生きと働く人たちをお招きして、今、どういう力を育てたらよいかなど、経験談とともに楽しくお聞きしたいです。きっと健常者も障害のある方も関係なく学べると思います。
18	詳しい知識がないので勉強したい気持ちが強いです。
19	本人が進路を自分で決められるようになるための支援
20	関係機関との連携が重要であり情報共有や引き継ぎをすることの大切さを改めて知りました。